おんがく広場 第150号
令和4年(2022)1月14日(金)
発行・クッキー会　発行責任者・加藤良一
Facebook,Twitterにも掲載／リンクフリー／御自由にコピーして下さい　令和2年(2020)4月10日創刊　連絡先　rkato@max.hi-ho.ne.jp

オンラインで楽しむ男声合唱

昨年12月24日、全日本男声合唱オンラインフェスティバル第1部の配信(10団体)がはじまり、つづく第2部(10団体)が1月12日に配信されました。夜8時から9時50分までPCの前に釘付けになってしまいました。全国には様々な合唱団がいるもので、その形はひとつではないことがよくわかります。

男声合唱団コール・マイゼン(山形)：「栄冠は君に輝く」「こころのつばさ」
えちごコラリアーズ(新潟)：「Perti autem」「Gagòt」
男声合唱団銀河(兵庫)：男声合唱と2台のピアノのための『新しい歌』より「きみ歌えよ」、「天の海に」
男声合唱団クール・ビア(長野)：『水のいのち』から「川、海よ」
New hangover(兵庫)：「涙そうそう」「As Time Goes By」「Tennessee Waltz」
京都男声合唱団(京都)：『ティオの夜の旅』から「海神」
信州大学グリークラブ(長野)：「信州大学グリークラブ団歌」、オナーティン「ふるさと」
金沢メンネルコール(石川)：『木下杢太郎の詩から』から「柑子、市場所見」
Sing Alone(大阪)：「案山子」「真赤な太陽」
新月会(大阪・兵庫)：『アイヌのウポポ』から「くじらまつり、イヨマンテ、恋歌、輪舞(リムセ)」

一部を紹介すると、コール・マイゼンは、昭和23年創立という古い合唱団、当初30代のメンバーが多く思うようにうまくいかず、まぁ四十からだね、ということで四十雀、そのドイツ語マイゼンを団名にしたといいます。力強い演奏でした。銀河は、「きみ歌えよ」をまさにピアノ2台を使っての演奏でした。「天の海に」は幻想的な映像を背景に柿本人麻呂の世界が出現し、後半はジャジーな曲調に変わる面白い曲でした。

Hangoverとは二日酔いのこと、4人組のバーバーショップです。映像処理の段階でうまくいかなかったようで、本当はもっと上手なグループ、とは講評の広瀬康夫さんのコメントでした。京都男声は、プロジェクトXをパクった「プロジェクトK」と題して、コロナ禍のなか、45回にも及ぶ試行錯誤のオンライン練習で活動を維持した500日に及ぶ戦う男たちの姿をドキュメンタリータッチで描き出しました。講師から「オンラインドキュメンタリー大賞」を差し上げると賞賛されました。常任指揮者は京都府合唱連盟・鈴木捺香子理事長。

異色だったのがSing Alone。多重録音により文字通り一人で歌っています。同一人物の声だからよく溶け合った合唱？でした。歌もさることながらかなりの録音技術がないと制作できないレベルだと思います。トリを務めた新月会は、文句なく圧倒的な迫力でした。

第3部(9団体)は1月14日の予定です。男たちの合唱を聴いて元気をもらいましょう！　配信済のものはいつでも無料で視聴できます。

埼玉第九合唱団 ようやく練習再開の予定がオミクロン株で再延期！

埼玉第九は、2020年2月27日、新型コロナウイルス感染の恐れがあるため3月16日まで練習を休みとしましたが、その後再開のめどが立たずに延々と休みが続き、2年近く経ってしまいました。休止の周知をした機関誌「たびだち」には新型コロナウイルス感染症の正体がよくわからない段階だったので、新型肺炎と書かれていたとのことです。

今年こその思いで去る1月10日、満を持して再開計画を立てましたが、予想外のオミクロン株出現でまたしても中止となってしまいました。とりあえず１か月ほど様子を見るようですが、団員数がきわめて多いため、練習会場の確保や感染対策など役員の方々のご苦労が偲ばれます。

コロナ禍、弛まず続ける男声合唱

男声合唱団ゴールデンエイジふくいは、2021年度1年間の練習＆イベントが51回にも達していますが、その全出席率は86%と高いものでした。皆勤が11名もおられます。入団資格は「60歳以上」ですので平均年齢はそれなりに高いはずですが、仲間と元気に歌い合っています。また、機関紙「GAFニュースレター」は創立以来16年間で314号にも及んでいます。

新型コロナウイルス感染症はオミクロン株の出現で新たな段階を迎えています。これからは「ウィズ・コロナ」にシフトしなければ何もできないと思ったほうがよいのかもしれません。感染対策を徹底し、正しく恐れながら過ごしたいものです。